

日本学術振興会 特別研究員 対策講座

筑波大学 システム情報系 准教授

高野 祐一

システム情報工学研究群 博士後期課程 進学説明会

2024年11月8日（金） 3A202/Zoom

自己紹介：高野 祐一



□ 学歴：

- 2005年3月：筑波大学 社会工学類 卒業
- 2007年3月：筑波大学 大学院 博士前期課程 修了
- 2010年3月：筑波大学 大学院 博士後期課程 修了

□ 職歴：

- 2009年4月～2010年11月：学振 特別研究員 DC2 → PD
- 2010年4月～9月：Tilburg大学（オランダ）客員研究員
- 2010年12月～2014年3月：東京工業大学 助教
- 2014年4月～2018年2月：専修大学 講師 → 准教授
- 2018年3月～現在：筑波大学 准教授

- 担当授業：ファイナンス、経営と機械学習、会計と経営、問題発見と解決、資産評価論、技術経営

学振特別研究員とは？

学振特別研究員とは？

□ 日本学術振興会（a.k.a. 学振）

- 文部科学省所管の独立行政法人／外郭団体
- 学術研究の助成や、研究者養成資金の支給などにより学術の振興を図ることを目的とする。
- 優秀な研究者にお金を支給する素晴らしい団体

□ 日本学術振興会 特別研究員（a.k.a. 学振・特別研究員）

- 優れた研究能力を有する大学院博士課程在学・修了者に、研究奨励金・研究費を支給する制度
- 博士課程の優秀な学生は、大学に在籍しながら生活費と研究費が支給される！

特別研究員の種類

区分	申請者	支給期間	研究奨励金
DC1	修士2年 博士課程進学予定者	3年間 博士1～3年	毎月20万円
DC2	博士1～2年 博士課程在学予定者	2年間 (PD切替可)	毎月20万円
PD	博士3年／修了者 博士取得後5年未満	3年間	毎月36万円

- DC1に採用されれば、博士課程の3年間は毎月20万円の研究奨励金（＝生活費）をもらって研究に専念できる。
- さらに、特別研究員奨励費（＝研究費）を年間80万～150万円（の7割程度）もらえる。
- 近年の採用率はDC1・DC2・PDすべて20%程度。
- 自分は筑波大在学中の博士3年からDC2に採用された。

DC1の選考の流れ

- 修士2年の5月（学内締切）に提出：
 - 申請者情報（審査区分、研究課題名、学歴など）
 - **申請内容ファイル**（研究計画、研究遂行力、研究者像）
 - 評価書（指導教員作成：申請者の強み、弱み、将来性）
 - 特別研究員奨励費応募調書（研究経費、必要性など）
- **第一次選考**（書面審査）
 - 一段階目：（審査区分の）審査委員 6 名による書面審査
 - 二段階目：ボーダーゾーンの申請者を改めて書面審査
 - 結果（10月）：採用内定／採用内定候補／不採用
- **第二次選考**（書面審査） ※以前は面接審査を実施
 - 結果（1月）：採用内定候補 → 採用内定／補欠／不採用
 - 結果（2月）：補欠 → 採用内定／不採用
 - 採用予定数：650～700名（申請者の約20%）程度

申請書（申請内容ファイル）の構成

- 以下の内容（合計7ページ）で構成される：
 - **研究計画**（3ページ）
 - (1) 研究の位置づけ
 - (2) 研究目的・内容等
 - **人権の保護及び法令等の遵守への対応**（1ページ）
 - **研究遂行力の自己分析**（2ページ）
 - (1) 研究に関する自身の強み
 - (2) 今後研究者として必要と考えている要素
 - **目指す研究者像等**（1ページ）
 - (1) 目指す研究者像
 - (2) 採用期間中に行う研究活動の位置づけ

採用に向けて

査読付き論文とは？

- 学振の採否を大きく左右するのが、査読付き論文の数！
- **査読付き論文** … 専門家による審査（査読）を通過し、学術誌や会議で発表された論文
- **査読の手順**
 1. 論文を学術誌／会議へ投稿
 2. 査読者（1～5名の研究者）による詳細な審査
 3. 査読結果：採択／修正要求／不採択
→ 修正要求の場合は4へ進む
 4. 査読コメントに従って論文を修正 → 1へ戻る
- 通常は採択されるまでに2～3周繰り返す。
- 審査は短ければ1～2か月、長ければ1～2年かかる。
- **投稿から採択まで数か月～数年かかる！**

採用に向けて（１）：研究成果

- 採用に必要な査読付き論文数の目安（諸説あり）
 - DC1の場合：1本以上
 - DC2の場合：3本以上
 - PDの場合：5本以上
- DC1に申請する場合、修士2年の5月までに査読付き論文を1本確保する必要がある！　　どうするか…？

**学部4年の卒業研究で質の高い研究をして、
その論文を投稿し、1年以内の採択を狙え！**

- 研究テーマは教員とよく相談せよ！
- 最新の論文をよく調査し、その成果を上回れ！
- 教員と協同して、全力で研究に取り組み！
- 春休みに教員と一緒に論文を執筆して投稿せよ！

採用に向けて（２）：申請書

- 申請書は（審査区分の）研究者に審査される。
- 学生気分ではなくプロ仕様の申請書が要求される…。

児島将康「科研費獲得の方法とコツ」羊土社
大上雅史「学振申請書の書き方とコツ」講談社
を読んで、申請書作成のノウハウを学習せよ！

- 研究計画は指導教員とよく相談せよ！
 - プロが見ても納得する内容に。
- 採用経験者の申請書入手せよ！
 - 教員の科研費申請書も参考になる。
- 教員や採用経験者に申請書を読んでもらい、否定的なコメントを求めよ！
 - コメントに従って改善を繰り返す。



採用に向けて（３）：その他の努力

申請書の見栄えを良くするための 自分なりの戦略を実行せよ！

- （査読の無い）論文執筆や学会発表を増やす。
 - 紀要やディスカッションペーパーを執筆する。
 - 同じ内容を複数の学会で発表する。
- 共同研究で研究業績を増やす。
 - 教員や先輩の研究のデータ処理やコンピュータ実験に協力したり、後輩の研究に助言したりなど。
- 評価書には「特に優れた学業成績，受賞歴，飛び級入学，留学経験，特色ある学外活動など」を記述する欄がある。
 - 学業成績の向上、学会の発表賞、各種コンペティション、留学、学外活動など積極的に取り組むべき。

経験談

経験談（１）：DC1に玉砕

- 指導教員の勧めで、学部４年の春休みに卒業論文を査読付き学術誌に投稿する。
 - 商品在庫問題に金融工学のリスク指標を導入し、数式をこねくり回したら問題が上手く解けた。
- 幸運にも修士１年の３月に論文が採択される。
- 指導教員の勧めでDC1に申請するが不採用となる。
- 敗因（１）：**申請書執筆のノウハウが欠けていた。**
 - ノウハウ本を読む、他人の申請書を参考にする、他人から申請書に批判コメントをもらう、など。
- 敗因（２）：**申請する分野が良くなかった。**
 - 「情報」分野は競争が厳しい（査読付き論文の本数が比較的多い）。

経験談（２）：DC2に採用

- 博士2年の5月に以下の業績でDC2に申請する（多分）。
 - 査読付き論文 2 本（卒業論文・修士論文）
 - データ解析コンペティション 学生部門最優秀賞
- 書面審査を通過し、面接審査 → 補欠 → 後に採用！
- 勝因（１）：文系の分野に申請した。
 - 博士の数が少なく通りやすい（研究テーマにも依存）。
- 勝因（２）：資産運用に関する実用的な研究計画
 - 理論的な研究よりも実際に役立つ研究が好まれる。
- 勝因（３）：東大の友人（DC1採用者）から面接審査用のポスターを見せてもらった。
 - 東大の研究室では学振獲得のノウハウが継承されている。
- 勝因（４）：岡田先生にポスターを見ていただいた。

まとめ

まとめ

- 学振特別研究員は、生活費や研究費をもらいながら大学院の博士課程で研究に専念できる素晴らしい制度です。
- 博士後期課程への進学を検討している皆さんには、ぜひ「**DC1の獲得**」を視野に入れてほしい。
- DC1採用の目安：修士2年の5月までに査読付き論文 1 本
 - **論文投稿ができるように、学部 4 年の卒業研究に全力で取り組んで下さい。**
- DC2採用の目安：博士2年の5月までに査読付き論文3本
 - 共同研究に加わる、受賞を狙うなど、**申請書の見栄えを良くするための戦略を考えて実行して下さい。**
- 以下を読んで申請書執筆のノウハウを学んで下さい。
 - **児島将康「科研費獲得の方法とコツ」羊土社**
 - **大上雅史「学振申請書の書き方とコツ」講談社**